

函館工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	専門英語演習
科目基礎情報						
科目番号	0147		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	社会基盤工学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	各教員が配布する文献など					
担当教員	平沢 秀之,渡辺 力,宮武 誠,佐々木 恵一,小玉 齊明,菊池 幸恵,越智 聖志					
到達目標						
1. 社会基盤工学の主要な分野の英文を読み, 基礎知識を身につける. 2. 英語の学術論文を読み, 専門技術に関する理解を深める.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会基盤工学に関する英文を理解できる.		社会基盤工学に関する専門用語の英単語を理解できる.		社会基盤工学に関する専門用語の英単語を理解できない.	
評価項目2	研究分野に関する専門技術を英論文から修得できる.		研究分野に関する英論文を理解できる.		研究分野に関する英論文を理解できない.	
学科の到達目標項目との関係						
函館高専教育目標 B 函館高専教育目標 E JABEE学習・教育到達目標 (B-2) JABEE学習・教育到達目標 (E-4)						
教育方法等						
概要	本授業は, 社会基盤工学科の各教員が担当している科目に関する英文を翻訳・読解することで, 専門技術に関する英語表現を習得する. また, 卒業研究のテーマに関わる洋書ならびに英論文を和訳し, 研究を遂行する上で必要とされる基礎的知見を習得するとともに, 和文だけではなく, 英文からも専門技術を習得する素養を身につける. そして, 専門分野の課題の中で, その学習内容に関係する問題が解けることを到達レベルとする. なお授業内容は公知の情報のみに限定されている.					
授業の進め方・方法	本授業の前半は, 各科目担当の教員による専門英語の基礎的な単語や英文の翻訳, 英文表現の方法を習得する. 授業ではただ和訳するだけではなく, 専門的な英語表現を理解し, 英文の内容や意味を読解する力を身に付ける必要がある. また, 後半は所属する各研究室の担当教員が, 各自の卒業研究テーマに関する文献を配布するので, 自主的に和訳するとともに習得した知見をレポートとして準備し, 各研究室で行われるゼミを通じて研究に生かすことが必要である.					
注意点	JABEE教育到達目標評価: 試験60% (B-2 : 100%) , レポート40% (B-2 : 50%, E-4 : 50%)					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス ・構造系 (渡辺教員)	授業の進め方や評価方法を理解する. 構造系の学問に関する基本的な英文を読解・表現できる.		
		2週				
		3週	・地盤系 (小玉教員)	地盤系の学問に関する基本的な英文を読解・表現できる.		
		4週	中テスト			
		5週	試験答案返却・解答解説 ・水工系 (宮武教員)	試験で間違った箇所が理解できる. 水工系の学問に関する基本的な英文を読解・表現できる.		
		6週				
		7週	・計画系 (佐々木教員)	計画系の学問に関する基本的な英文を読解・表現できる.		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	試験答案返却・解答解説	試験で間違った箇所が理解できる.		
		10週	研究テーマに関する文献の和訳と読解	自分の研究テーマに関する文献を和訳することで, 専門用語を含む英文を読解することができる.		
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週	期末試験は実施しない			
		16週	レポート返却・解答解説	返却したレポートから解読できなかった英文を理解できる.		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル 授業週
評価割合						
		試験	レポート		合計	
総合評価割合		60	40		100	
基礎的能力		60	0		60	
専門的能力		0	40		40	
分野横断的能力		0	0		0	